

概要 = ザクセン州 / ライプチヒ

◎**ザクセン自由州** (Freistaat Sachsen) は、ドイツに 16 ある連邦州の 1 つである。1990 年のドイツ再統一により加盟した 5 つの新連邦州の 1 つ。州都はドレスデン。



州都	ドレスデン
最大の都市	ライプチヒ
面積	18,414 km ²
人口	430 万人
公用語	ドイツ語、ゾルベン語

ザクセン州 (Sachsen) はドイツ東部に位置する連邦州。ブランデンブルク州、ザクセン・アンハルト州、テューリンゲン州と接するほか、ポーランド、チェコと国境を接する。

中世の初期には、ザクセンというと現在のニーダーザクセン州、ノルトライン＝ヴェストファーレン州を合わせた地域を指していた。250～500 年頃に現在のシュレースヴィヒ＝ホルシュタイン州からこの地域にザクセン人が移住定着し、ザクセン公国の時代に領土を拡大した。その後、ザクセン王国、ドイツ帝国、ヴァイマル共和国、東ドイツなどの歴史を経てきており、ザクセン王国時代に現在の地域になった。

ザクセン州はドイツの東の端にあり、南はチェコ、東はポーランドと接している。また北はブランデンブルク州、ザクセン＝アンハルト州、北西から西にかけてテューリンゲン州、西はバイエルン州と接している。州都はドレスデンであり、その他ではライプチヒ、ケムニッツ、ツヴィッカウなどが主な都市である。

州の南東から北西にかけてエルベ川が流れており、この周囲が州の中心となっている。ほかにエルベ川の西を流れるムルデ川と、ポーランドの国境線になっているナイセ川が主な川である。

ザクセン州の南西部は歴史的には、ラウジッツまたはオーバーラウジッツと呼ばれ、少数民族であるソルブ人の居住地地域となっている。

北から南にかけて全体が田園地帯であり、南部は次第に標高が上がりチェコとの境界付近は山岳地帯である。また、バイエルン州からエルベ川付近まではエルツ山地となっている。エルベ川が山を削った渓谷は雄大な景色をつくり、エルベ川砂岩地域として有名である。州の東に行くほど山は低くなり、それらはラウジッツ山地と呼ばれている。

7 世紀から 9 世紀、エルスター川とパルテ川の合流地点近くに、スラヴ系のソルブ族の集落ができたことがこの街の始まりとされている。

「菩提樹が育つ場所」という意味の “urbs Libzi” というスラヴ語で呼ばれ始めたのは、1015 年頃に遡る（このため、日本でも稀に菩提樹市と称される場合がある）。

ライプチヒの聖トーマス教会カントル（トーマスカントルとも）は近世においてドレスデンの聖十字架教会と並んで北ドイツの教会音楽をリードしてきた。トーマスカントルには J. S. バッハなど高名な音楽家が多い。1539 年、マルティン・ルターは新教布教のために、この聖トーマス教会でも説教を行った。

◎**ライプチヒ** は、ザクセン州に属するドイツの都市。人口は約 52 万人で、ザクセン州では州都ドレスデンをやや上回って最大の都市で、旧東ドイツ地域ではベルリンについて 2 番目。ベルリンの壁崩壊、ひいては東西両ドイツの統一の端緒となった住民運動の発祥地。また、ドイツサッカー協会の発祥地で、1900 年に設立された。ここには伝統的に 2 つのサッカークラブがあるが、下位リーグ（4～5 部）にも関わらず、両者のクラブサポーターが反目し合っており、死傷者がでるほどの争いが絶えないため、ダービー戦ではいつも警備体勢が厳重だ。そのような状況下で、2009～10 頃、RB(レッドブル飲料メーカー)が膨大な資金を投入して「RB ライプチヒ」を設立し、ライプチヒ大学スポーツ学部との科学的指導協力にもとづき、ジュニア育成を主柱に強化を図り、2016 年にトップリーグに昇格して間もなく

バイエルンミュンヘンを抜いて1時期第1位の座についた(2017年1月時2位)。近年、女子サッカーも開始した。また、欧州屈指の「サッカーアカデミー」も完成した。ジュニア育成にいかにか力を注いでいるかをうかがい知ることができる。その他サッカー関連では、ザクセン州連盟が運営する大規模な合宿所「フスバルシュレー」があり、旧東独時代では欧州最大と言われた屋内サッカー施設がある。

1409年に開学した**ライプチヒ大学**は、ドイツ国内でハイデルベルク大学(1386)、ケルン大学(1388)に次いで3番目の歴史を持つ(但し、ケルン大は空白時期があるため、2番目とも言われる)。スポーツ科学にかんしてはドイツ最古の歴史を持つ(1920年代、「身体教練学科」)。ドイツの文豪ゲーテもこの大学にいた(1765年から3年、1749-1832)。森鴎外は、ドイツ留学の最初の1年間(1884年11月22日-翌年10月11日)を当大学で学び、ホフマンなど良き師と同僚に恵まれた。当大学出身のノーベル賞受賞者は数十人。第二次対戦後、ドイツは東独と西独に分かれ(1949年)、東独にライプチヒ体育大学(1950年、略; DHfK)が創立され、マイネル教授(運動学)やティテル教授(機能解剖学)、ホーホムート教授(バイオメカニクス)などが、それぞれの分野で世界に先駆けた研究をおこなう。それらの著書は、今もスポーツ科学の基準書としての地位を保っている。旧東独時代、ライプチヒ体育研究所(FKS, 現 IAT)がトップスポーツの科学研究を任い、一方、DHfKは、ジュニアスポーツの科学研究の中核であった。したがって、「コオーディネーション理論」の研究に膨大な時間と人材が投入されたことも納得できる(始まりは1960年代)。以上が、現在では「ライプチヒ学派」と称される所以となる。DHfKはドイツ再統一(1990年)後、ライプチヒ大学所属の一学部として再スタートする。

ライプチヒはまた、見本市によって発展した商業の都市である。本の都市としても発展した。15世紀末までは、外国の印刷業者や書籍商により印刷物が持ち込まれていたが、1481年、ライプチヒでも本が印刷されるようになる。1530年までに、1300種類もの本が出版された。1594年からは、本の見本市のカタログまで出版されるようになり、1650年には、世界初の日刊紙がライプチヒで登場することになる。次々と新しい印刷所と出版社が生まれ、ライプチヒは今日に至っても有名な書籍の街である。岩波文庫を作る際に手本にしたとされるレクラム文庫や、世界で最初の音楽出版社ブライトコプフもここで生まれた。

ライプチヒ市のオーケストラ、ライプチヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団は、市民階級による自主経営団体として1743年に発足した世界初のコンサート・オーケストラである。フェリクス・メンデルスゾーンやヴィルヘルム・フルトヴェングラー、ブルーノ・ワルターといった著名演奏家が常任指揮者を勤めた。ヨハネス・ブラームスがヴァイオリン協奏曲の初演を行なったことでも知られる。同団は通常オーケストラの倍の人数を持ち、ローテーションでライプチヒ歌劇場のピットにも入る。他にライプチヒ放送交響楽団も知られている。「荒城の月」で有名な音楽家、滝廉太郎は、1901年(明治34年)4月、日本人の音楽家では2人目となるヨーロッパ留学生として、ライプチヒ音楽院(設立者:メンデルスゾーン)に留学した。

ベートーベンの交響楽「第9」の歌詞は、文豪シラー(1759-1805、「群盗」など)がライプチヒに滞在したころ(1785年)、郊外のある館(現存)で書いた詩「自由賛歌」が元になっている。「自由賛歌」は、フランス革命直後ラ・マルセイエーズのメロディーでドイツの学生に歌われていたことから、シラーは、その詩を「歓喜に寄せて」(*An die Freude* 1803年)に書き直した。これをベートーベンが歌詞として1822年-1824年に引用し書き直したものだ。また、シラーとも交流を深めたゲーテの大作「ファウスト」のなかに、“アウエルバハの酒場にて”のシーンが登場するが、これは若きゲーテがライプチヒ大学・法学部の学生であったころ通った、大学近くの居酒屋を題材としており、現存している。ちなみに、手塚治虫の作品に、漫画「ファウスト」がある。

1813年にはナポレオン戦争中最大規模の戦いとなった諸国民の戦いが行われ、ナポレオン1世率いるフランス軍19万と、プロイセン・ロシア帝国・オーストリア帝国・スウェーデンの連合軍36万が激突する舞台となった。郊外には、その「ライプチヒの戦い」百年を記念して1913年に、欧州最大の石造モニュメントが築かれた(現存)。

旧東ドイツ時代のライプチヒはドレスデン、カール・マルクス・シュタット(現・ケムニッツ)とともに東ドイツの主要工業地域を形成した。また、ライプチヒ見本市は社会主義政権下でも継続されていた。東ドイツ時代末期の1989年には「月曜デモ」と呼ばれる反体制運動が起き、旧東ドイツにおける民主化運動の拠点となった。

ドイツ統一後は、ポルシェ社やBMWなど旧西ドイツの企業も進出し、さらにDHLも大規模な流通拠点を設置している。

ヨーロッパ最大の床面積を有するライプチヒ中央駅があり、ドイツ東部交通の要所となっている。ライプチヒ中央駅では一日700以上の列車が発着しており、ベルリンやミュンヘンといった国内の各主要都市に、乗り換えなしで行くことが可能。市内交通も充実しており、市内を多くの路面電車が走っている。ライプチヒ/ハレ空港が市内中心部より約15kmの所にある。空港はハレとライプチヒの間にあり、市街地とはRE、ICE/ICやバスで結ばれている。